
2021年3月期 通期決算説明会

CONNECT!

～電気と情報をつなぐ～

 **日東工業株式会社**

証券コード：6651

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。従って、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
また、表記の都合上、公表している数字とは異なる場合があります。

1 2021年3月期 通期決算概要

2 2022年3月期 通期連結業績予想

3 中期経営計画

4 参考資料

- 1 2021年3月期 通期決算概要**
- 2 2022年3月期 通期連結業績予想
- 3 中期経営計画
- 4 参考資料

通期 連結決算ハイライト

- 通期業績は減収増益（経常・純利益）。親会社株主に帰属する当期純利益は**過去最高**
- 売上高は、5GやGIGAスクール構想関連の特需案件が業績を牽引したものの、コロナ禍のマイナス影響などにより全体では減収
- 営業利益は、変動費改善や固定費減少などにより微減に留まる

(単位：百万円)

	2020/3		2021/3		
	実績	計画	実績	前期比 増減率	計画比 増減率
売上高	139,421	135,500	137,902	△1.1%	+1.8%
営業利益	12,402	11,600	12,333	△0.6%	+6.3%
経常利益	12,038	11,900	12,660	+5.2%	+6.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	8,048	7,500	8,827	+9.7%	+17.7%

通期 セグメント別 決算ハイライト

- 配電盤関連製造事業は、コロナ禍の影響や前期計上の学校空調に関連した製品の売上剥落により減収減益
- 情報通信関連流通事業は、5G関連やGIGAスクール構想案件、テレワーク商材の売上が好調に推移し増収増益
- 工事・サービス事業は、オフィスのレイアウト変更やGIGAスクール構想などの特需案件を獲得したものの、従来の工事案件が減少し減収。一方、外部委託費が縮小し増益
- 電子部品関連事業は、下期に国内外の自動車関連市場や海外の業務用エアコン関連市場の需要が急回復を見せたものの、上期における同市場の低迷などの影響が大きく、減収減益

(単位：百万円)

	セグメント別	2020/3	2021/3			
		実績	計画	実績	前期比増減率	計画比増減率
売上高	配電盤関連製造事業	83,866	72,800	74,015	△11.7%	+1.7%
	情報通信関連流通事業	40,774	49,000	49,893	+22.4%	+1.8%
	工事・サービス事業	2,827	2,800	2,799	△1.0%	△0.1%
	電子部品関連事業	11,954	10,900	11,194	△6.4%	+2.7%
	合計	139,421	135,500	137,902	△1.1%	+1.8%
営業利益	配電盤関連製造事業	10,113	—	9,432	△6.7%	—
	情報通信関連流通事業	1,070	—	1,943	+81.6%	—
	工事・サービス事業	204	—	251	+23.3%	—
	電子部品関連事業	1,011	—	689	△31.9%	—
	合計	12,402	11,600	12,333	△0.6%	+6.3%

通期 配電盤関連製造事業（部門別売上高）

2021年3月期
通期

- コロナ禍の影響による売上減少や前期計上の学校空調に関連した製品の売上剥落により減収
- 配電盤部門とキャビネット部門は、5G関連の設備投資に伴い一部製品の売上は増加したものの全体では減収
- 遮断器・開閉器部門は、海外子会社であるエレット（タイランド）のブレーカ等の売上増加

（単位：百万円）

部門別 売上高		2020/3	2021/3			
		実績	計画	実績	前期比 増減率	計画比 増減率
製造事業 配電盤関連	配電盤	47,472	38,700	39,909	△15.9%	+3.1%
	キャビネット	24,585	22,800	22,716	△7.6%	△0.4%
	遮断器・開閉器	5,188	5,700	5,521	+6.4%	△3.1%
	パーツ・その他	6,619	5,600	5,867	△11.4%	+4.8%
	合計	83,866 (5,856)	72,800	74,015 (6,940)	△11.7%	+1.7%
連結全体合計		139,421	135,500	137,902	△1.1%	+1.8%
連結売上構成比		60.2%	53.7%	53.7%	△6.5%	—

※（）内はセグメント間の内部売上高

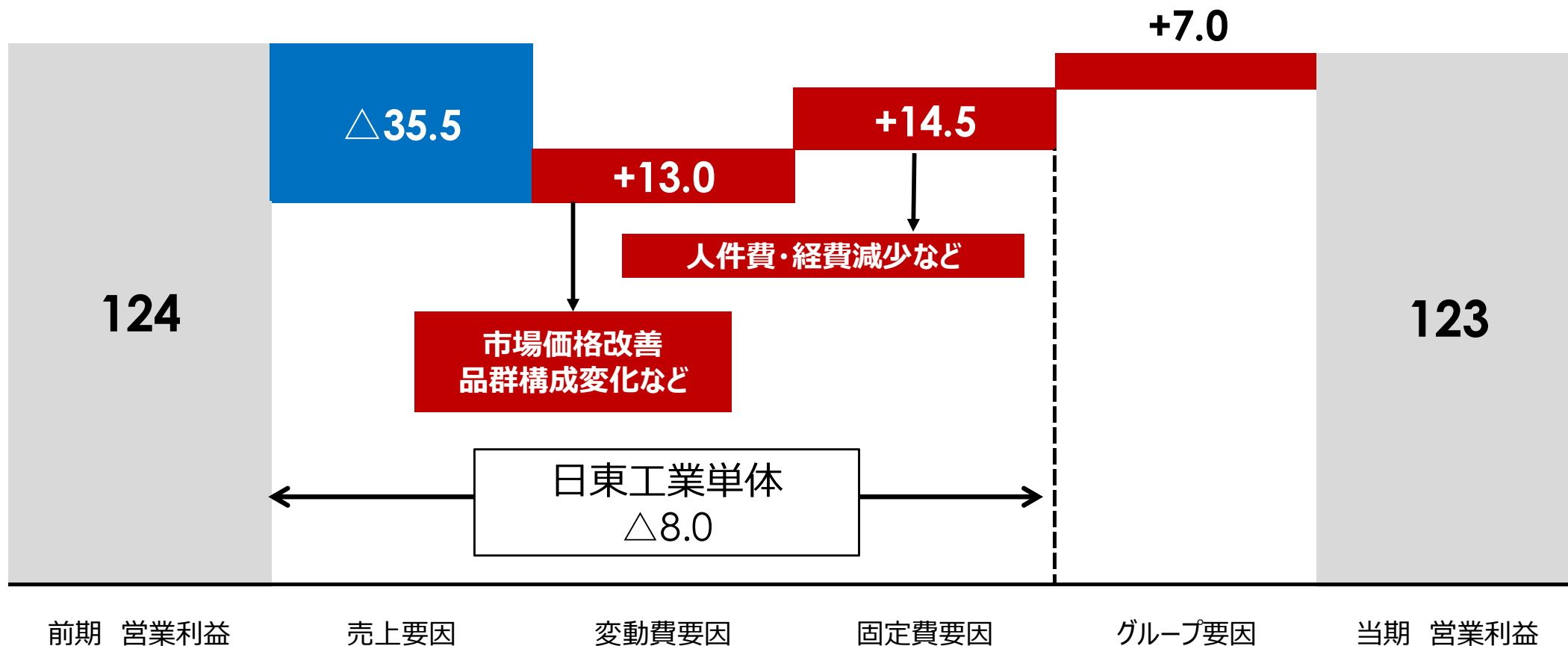
通期 連結営業利益の増減要因

- 日東工業単体要因では、市場価格の改善（変動費要因）や人件費・経費等の減少による利益の押し上げはあったものの、売上減少による限界利益の減少がそれらを上回り減益となる
- グループ要因では、コロナ禍の影響により北川工業グループが減益となったものの、サンテレホンが大きく伸長したことなどから増益となる

(単位：億円)

【2020/3月期 実績】

【2021/3月期 実績】



通期 連結キャッシュ・フロー計算書

2020/3 通期	
現金及び現金同等物の期首残高	38,934
営業活動によるキャッシュフロー	12,649
投資活動によるキャッシュフロー	4,920
財務活動によるキャッシュフロー	△26,925
現金及び現金同等物にかかる 換算差額	△54
非連結子会社との合併に伴う現金及び 現金同等物の増加額	96
現金及び現金同等物の期末残高	29,620

2021/3 通期	
現金及び現金同等物の期末残高	29,620
営業活動によるキャッシュフロー	12,250
投資活動によるキャッシュフロー	△3,857
財務活動によるキャッシュフロー	△3,880
現金及び現金同等物にかかる換算差額	+168
非連結子会社との合併に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—
現金及び現金同等物の期末残高	34,301

<2020/3 通期 主な要因>

■ 投資活動によるCF

新工場用地等の有形固定資産取得	△5,937
定期預金の払い戻しによる収入	+8,619

■ 財務活動によるCF

短期借入金の減少	△14,634
北川工業完全子会社化のための支出	△10,582

<2021/3 通期 主な要因>

■ 投資活動によるCF

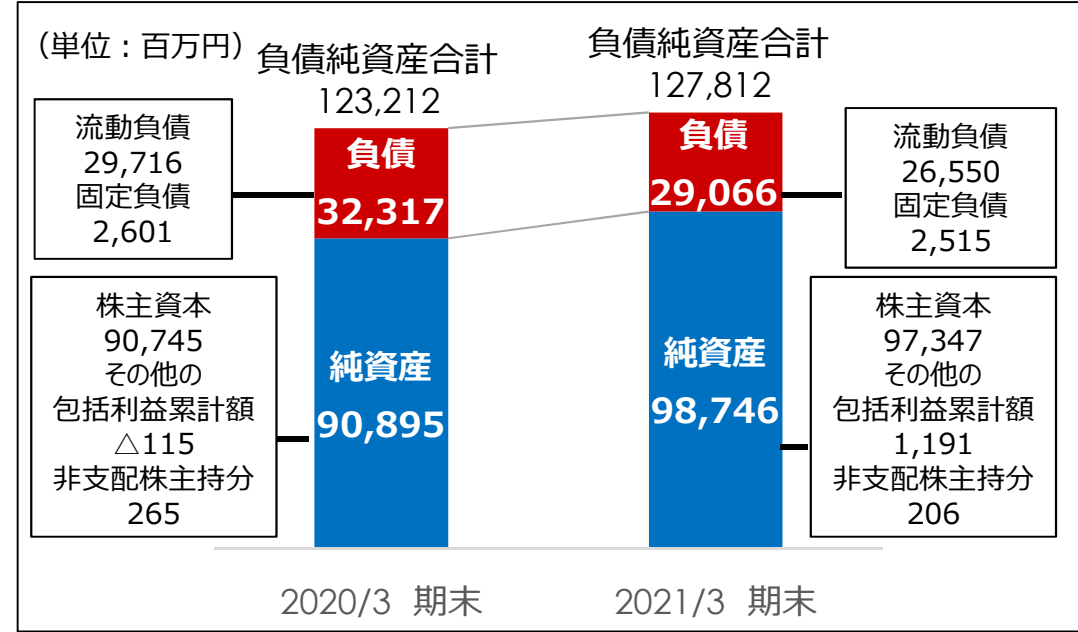
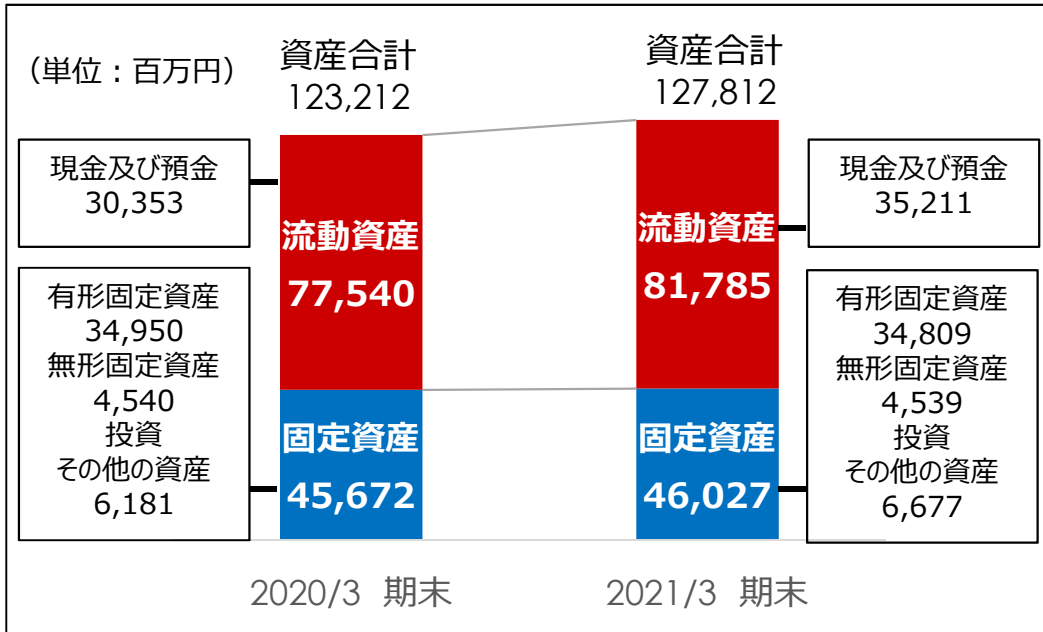
定期預金の払戻しによる収入	+837
固定資産の取得による支出	△4,939

■ 財務活動によるCF

短期借入金の減少	△1,597
配当金の支払額	△2,227

通期 連結財政状態の概要

■ 親会社株主に帰属する当期純利益の計上などにより現金及び預金が増加し総資産が増加



<主な増減内容>

■ 資産

現金及び預金の増加	+ 4,858
退職給付に係る資産の増加	+ 1,399

■ 負債

短期借入金の減少	△1,605
未払法人税等の減少	△1,185

■ 純資産

当期純利益	+ 8,827
剰余金の配当	△2,229

1 2021年3月期 通期決算概要

2 2022年3月期 通期連結業績予想

3 中期経営計画

4 参考資料

セグメントについて

■ 2022年3月期より、セグメントを見直し

- (旧) ①配電盤関連製造事業、②工事サービス事業
- (旧) ③情報通信関連流通事業
- (旧) ④電子部品関連事業



- ①電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業
- ②電気・情報インフラ関連 流通事業
- ③電子部品関連 製造事業

電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業

■ 配・分電盤、制御盤等の設計、製造、販売
および電気設備の設置、保守等の工事事業



電気・情報インフラ関連 流通事業

■ 情報通信機器および部材の仕入、販売等



売上 構成比	36%
営業利益 構成比	16%

売上 構成比	56%
営業利益 構成比	78%

電子部品関連 製造事業

■ 電磁波環境コンポーネント、精密エンジニアリングコンポーネントの製造、販売



売上 構成比	8%
営業利益 構成比	6%

通期 連結業績予想

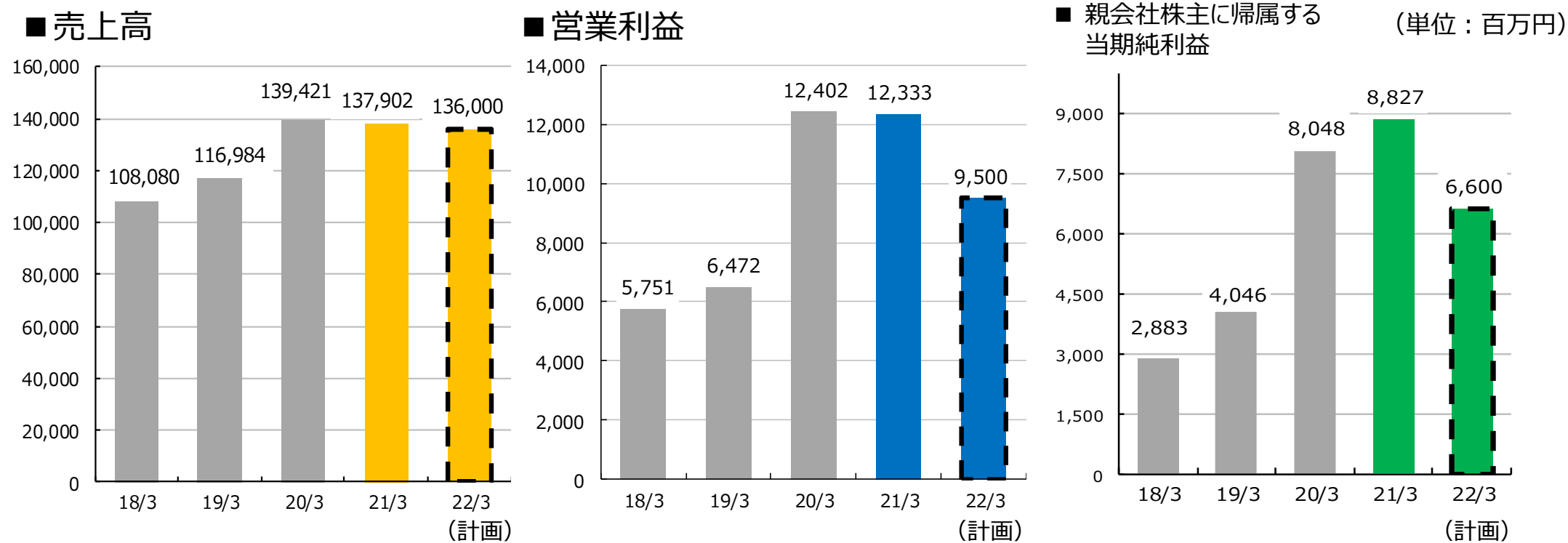
- 売上高は、設備投資需要の回復により既存市場の売上増加を想定しているものの、GIGAスクール構想関連の特需剥落などにより全体では減収となる見込み
- 利益は、価格競争激化や人件費・償却費の増加などにより減益となる見込み

(単位：百万円)

	2021/3		2022/3			
	2Q 実績	通期 実績	2Q 計画	前期比 増減率	通期 計画	前期比 増減率
売上高	63,443	137,902	61,300	△3.4%	136,000	△1.4%
営業利益	5,078	12,333	2,900	△42.9%	9,500	△23.0%
経常利益	5,219	12,660	3,000	△42.5%	10,000	△21.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,255	8,827	1,800	△44.7%	6,600	△25.2%

連結経営成績の推移

- 2021年3月期は減収、営業利益は微減となるも当期純利益は増益（過去最高）
- 2022年3月期は、GIGAスクール構想関連の特需剥落などにより減収減益を見込む

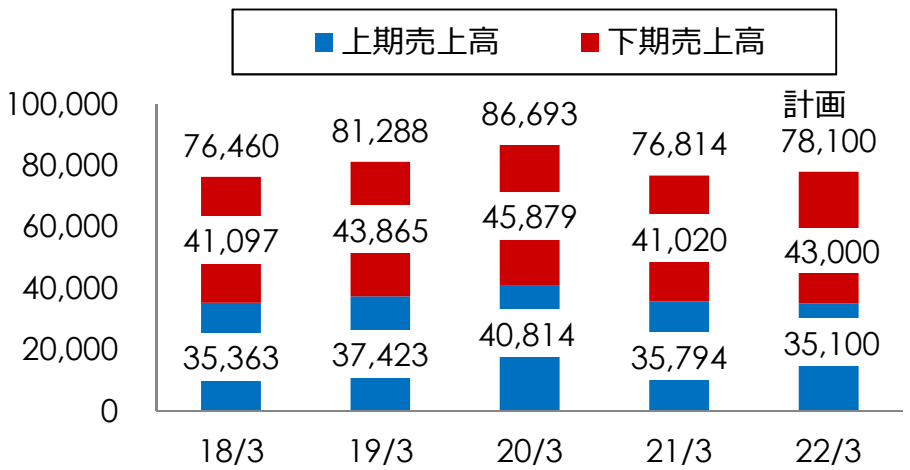


	18/3	19/3	20/3	21/3	22/3 (計画)
売上高	108,080	116,984	139,421	137,902	136,000
営業利益	5,751	6,472	12,402	12,333	9,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,883	4,046	8,048	8,827	6,600

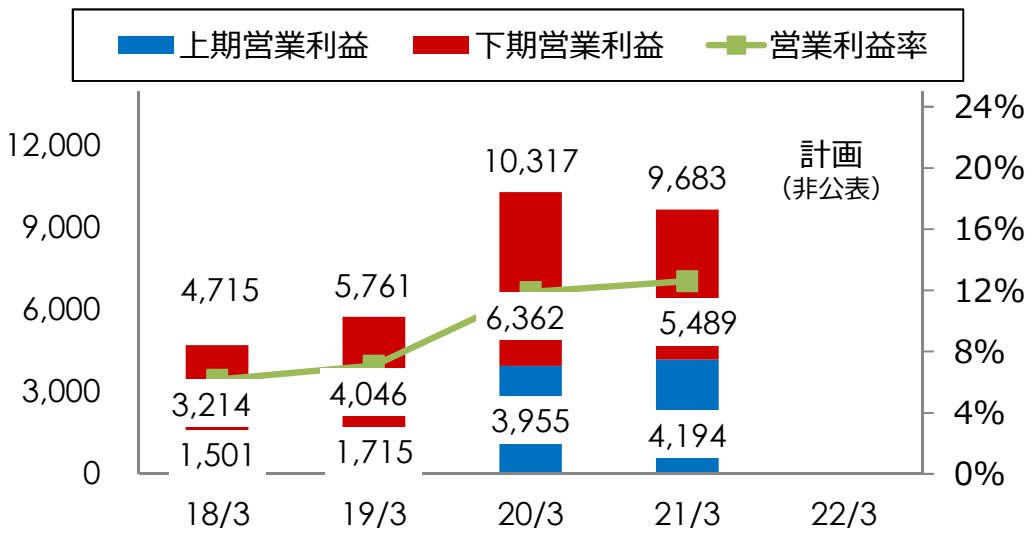
セグメント別 業績予想 (製造・工事・サービス)

通期予想 (売上高) 78,100百万円 (前期比 +1.7%)

(単位：百万円)



(単位：百万円)



※22/3期より、セグメントを変更しており、過去の数字も変更後のセグメント区分と同様の区分にて修正しております。四捨五入の関係で他公開資料と数値が一致しないことがあります。

通期予想
 ■ 22/3期は21/3期よりもコロナ禍の影響は軽微となり、既存市場の需要回復による売上増加により増収を見込む

取り組み
 ■ 5G関連市場での製品提案活動 (大手・地方通信事業者)
 ■ Gathergates社の収益性を重視した営業活動の推進

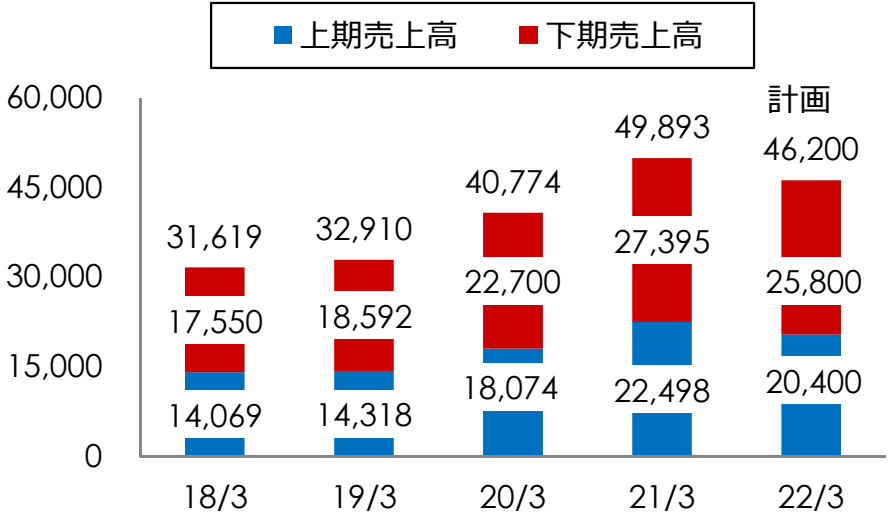
主要グループ会社：通期見通し

会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益影響度
国内			
日東工業	☁️☔️	☁️	大
新愛知電機製作所	☁️☀️	☁️☀️	小
南海電設	☀️	☁️	小
大洋電機製作所	☀️	☔️	小
海外			
Gathergates Group	☀️	☔️	小
NITTO KOGYO BM (THAILAND)	☀️	☔️	小

セグメント別 業績予想 (流通)

通期予想 (売上高) **46,200百万円 (前期比 Δ 7.4%)**

(単位：百万円)



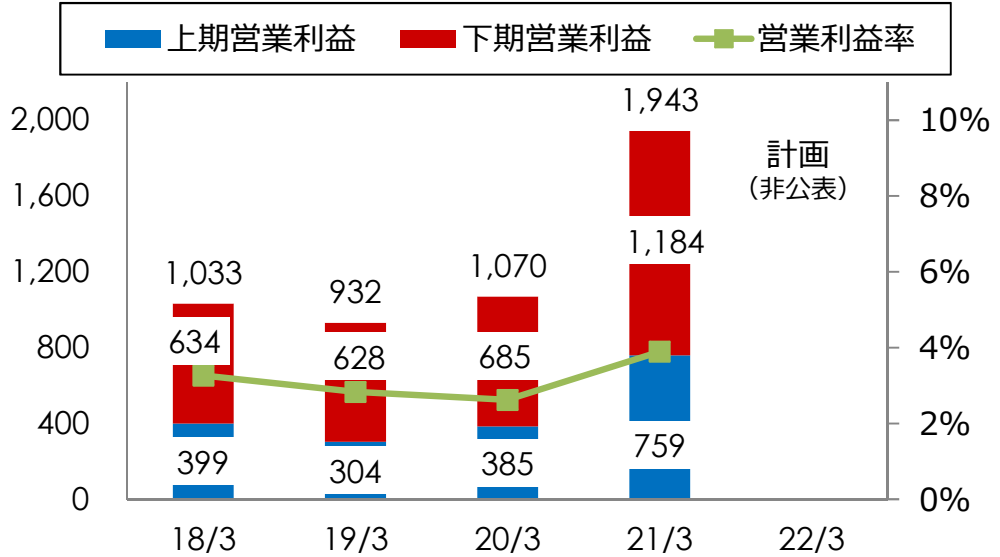
通期予想

■ 設備投資需要の回復により既存市場の売上増加を想定しているものの、GIGAスクール構想特需の剥落をカバーするまでには至らず減収を見込む

取り組み

- 5G関連市場での案件獲得活動
- 海外市場での収益最大化に向けた取り組み強化

(単位：百万円)



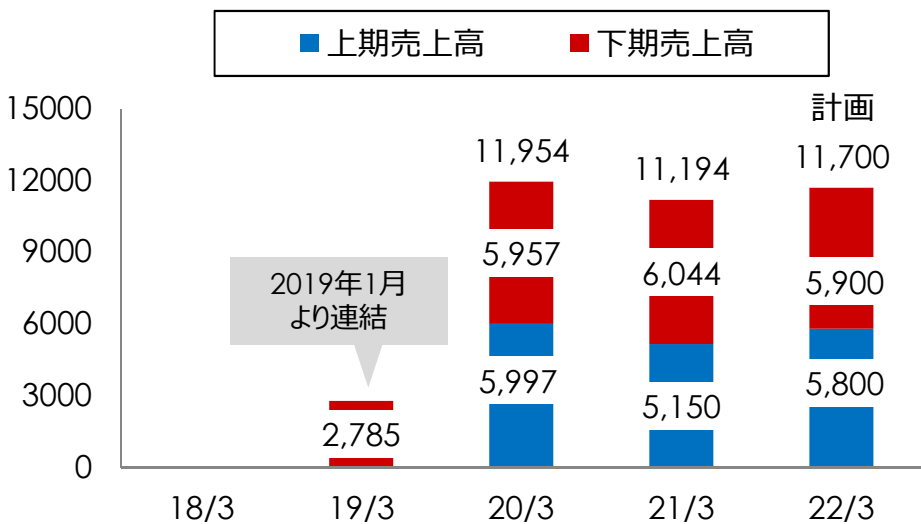
主要グループ会社：通期見通し

会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益 影響度
国内 サンテレホン			中
海外 SOECO			小

セグメント別 業績予想 (電子部品)

通期予想 (売上高) 11,700百万円 (前期比 +4.5%)

(単位：百万円)



通期予想

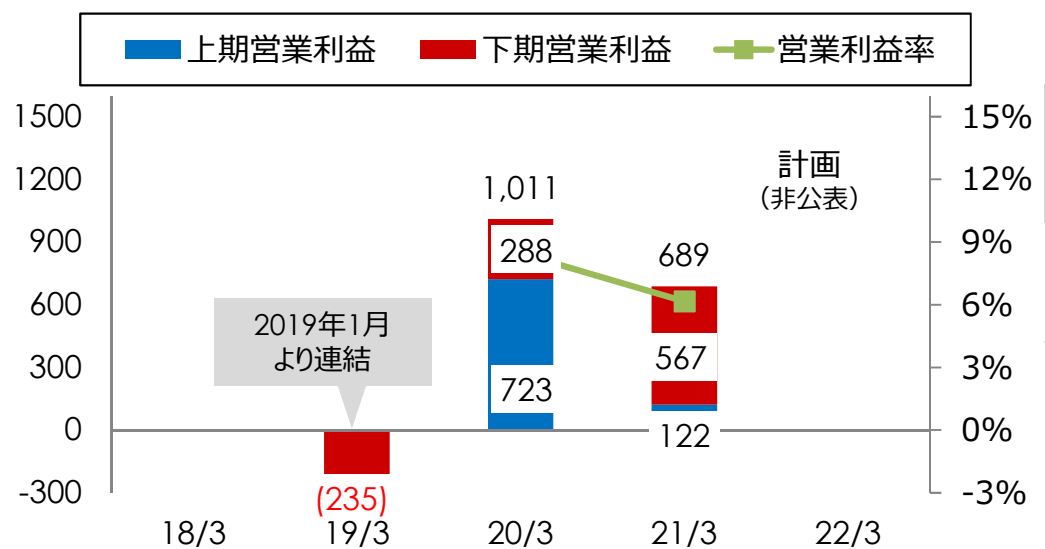
■ 21/3期はコロナ禍のマイナス影響が大きかったものの、22/3期はコロナ禍の影響が軽微となり、需要回復による売上増加により増収を見込む

取り組み

- EV等の環境自動車市場へのEMC製品、熱製品の販売強化
- 2021年6月より稼働予定の新設備「EVチャンバー」※を活用

※暗室内にモーターを実負荷で稼働させることが出来るダイナモシステムが配置されていることが大きな特徴です。ダイナモシステムにお客様のMotorを取りつけ、実負荷動作でのEMC試験の実施が可能です

(単位：百万円)



主要グループ会社：通期見通し

会社名	売上 (前期比)	営業利益	グループ利益影響度
北川工業	☀️	☁️	中

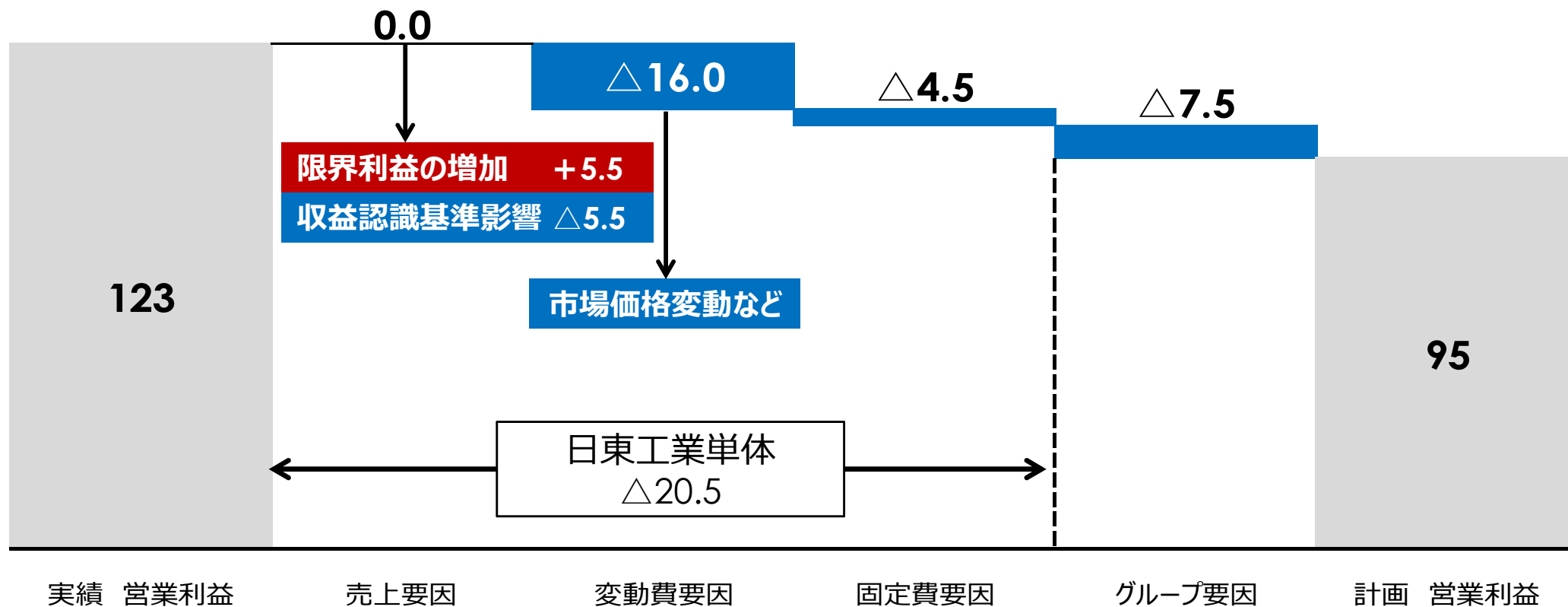
通期 連結営業利益の増減要因 (今期予想 前期比)

- 2022年3月期の連結営業利益は前期比23.0%減少の95億円を見込む
- 日東工業単体では、市場価格変動（変動費要因）や人件費・償却費の増加（固定費要因）などが利益の押し下げ要因となる
- グループでは、前期好調であったサンテレホンの減益影響が利益の押し下げ要因となる

(単位：億円)

【2021/3月期 実績】

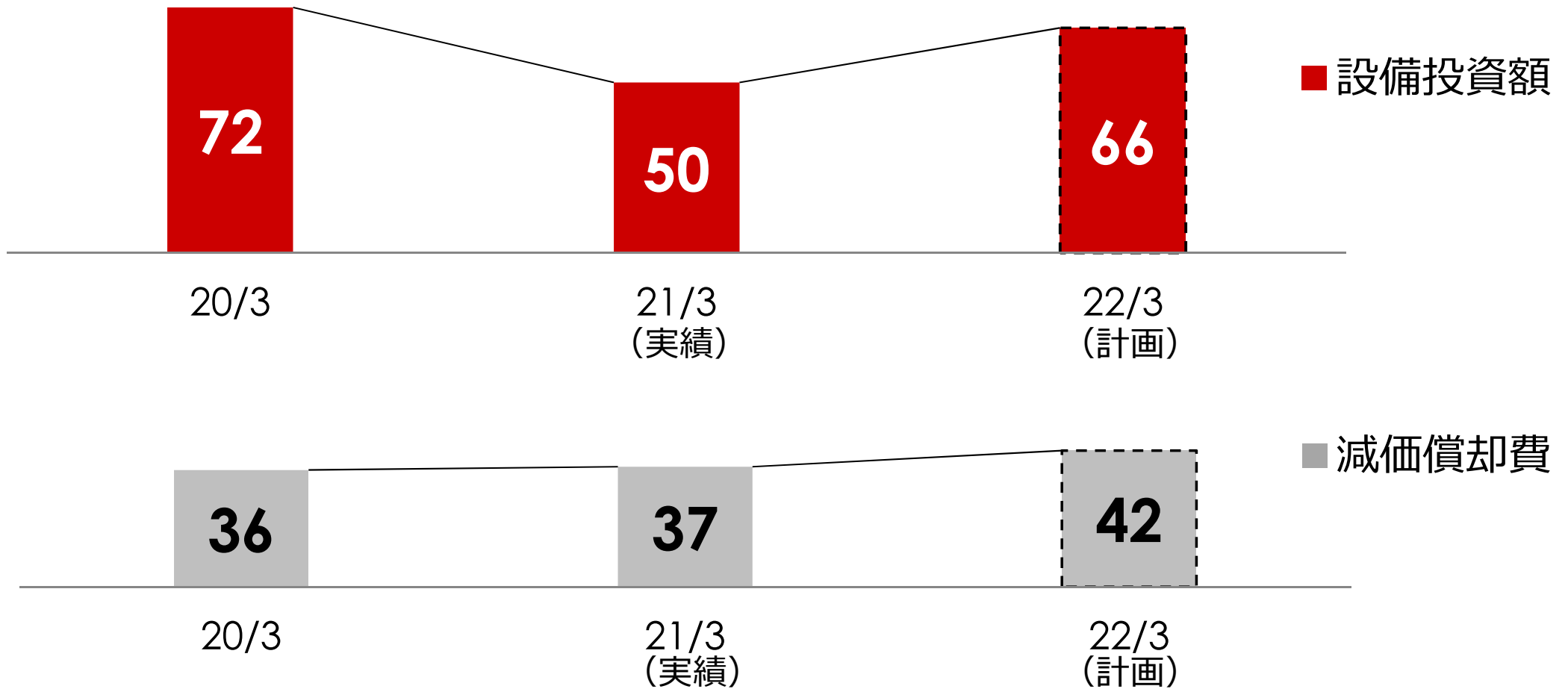
【2022/3月期 計画】



設備投資額、減価償却費

- 2022年3月期は、設備投資額65.8億円、減価償却費42.3億円を計画
- 設備投資計画は、瀬戸工場の造成費用等により増加予定

(単位：億円)

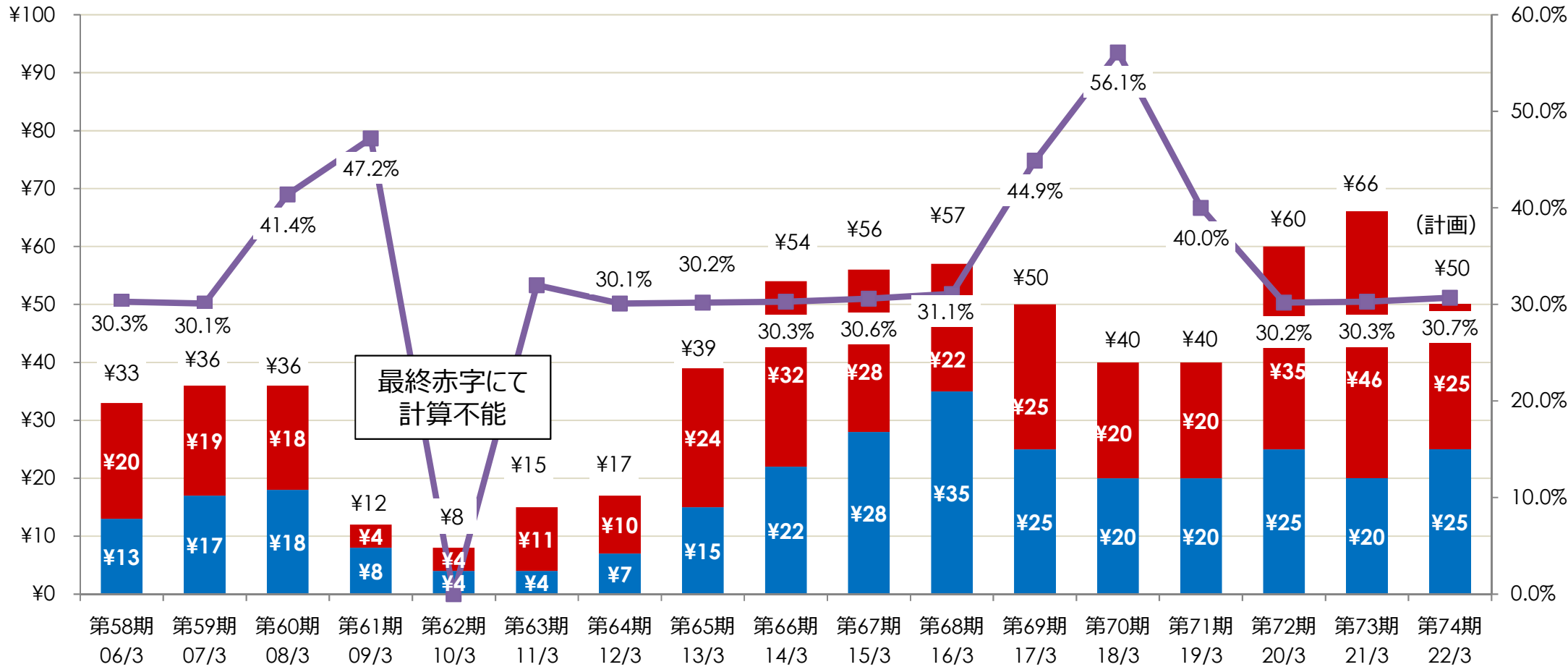


※1千万円単位を四捨五入しています

配当の状況

■ 2021年3月期は、期末配当金46円、通期配当金66円、連結配当性向30.3%、DOE2.8%
 ■ 2022年3月期は、通期配当金50円、連結配当性向30.7%を計画

■ 中間 ■ 期末 ■ 連結配当性向



- 1 2021年3月期 通期決算概要
- 2 2022年3月期 通期連結業績予想

3 中期経営計画

- 4 参考資料

基本方針

挑戦 次世代のビジネスモデルへ

- ◆お客様にとって新しい喜びを創る
- ◆当社の強みを活かすことをベースとし、対応範囲(提供価値)を広げ、盤・コンポーネントの売上げを拡大する

基本戦略

1. コア事業競争力の追求

技術力・製品提案力強化

対応型ビジネス／標準品ビジネス

2. グローバル化

東南アジアにおける配電盤事業の確立

海外事業

3. 新規ビジネスの展開

新たな技術・企業との融合

新規事業

4. 生産体制・経営基盤の強化

生産体制強化／経営管理基盤強化

次世代のビジネスモデル構築に向けた足掛かりをみつける

2020中期経営計画 振り返り 経営指標の達成状況①

- 売上高・営業利益ともに1年前倒しで目標を達成
- 2021年3月期は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、業績を大きく落とすことなく目標を達成

	2017/3 実績	2020中期経営計画 実績				2021/3 目標
		2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	
連結売上高 (億円)	1,066	1,080	1,169	1,394	1,379	1,250
連結営業利益 (億円)	65	57	64	124	123	100
売上高営業利益率 (%)	6.2	5.3	5.5	8.9	8.9	8.0

主な施策

- 学校空調関連（2019-2020年）、情報インフラ整備（2020-2021年）などの需要獲得
- 北川工業を子会社化（2019年1月）
- 日東工業製品の価格改定（2018年10月）

2020中期経営計画 振り返り 経営指標の達成状況②

- 対応型ビジネスが大きく伸長。しかし、標準品ビジネスはコロナ禍の影響などから減速
- 情報通信関連流通事業は、オフィス移転案件やGIGAスクール関連等の需要獲得により目標達成
- 海外事業は、北川工業、SOECOを子会社化したことにより目標達成

(単位：億円)

	2017/3 実績	2020中期経営計画 実績				2021/3 目標
		2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	
連結売上高	1,066	1,080	1,169	1,394	1,379	1,250
(内単体売上)	674	685	713	796	724	750
対応型ビジネス	465.5	468.1	481.1	551.5	502.7	470.0
標準品ビジネス	207.0	214.7	230.2	243.2	220.6	240.0
新規事業	1.5	2.2	1.7	1.3	0.7	40.0
(内情報通信関連流通事業)	305	316	329	407	498	350
(内海外事業)	40	35	41	94	96	70
連結営業利益	65	57	64	124	123	100
(内単体営業利益)	50	44	55	94	86	75

2020中期経営計画 振り返り 各種戦略の成果と課題

コア事業競争力の追求

<対応型ビジネス>

- グループ連携強化により対応領域拡大

<標準品ビジネス>

- パナソニックと生産分野で協業開始
- 製品性能検証機能の強化により製品の信頼性向上

⇒ **標準品の技術を対応型に応用し、
量産体制を構築**

新規ビジネスの展開

- スタートアップ企業と技術提携を締結
 - ・ デジタルグリッド/ノバルス
- 新事業の創出、新技術の獲得には粘り強く取組む必要があることを認識

⇒ **次の中計へ繋がるビジネスを見つけた
(EV、防災など)**

グローバル化

- タイでの事業拡大が進展
 - ・ BANGKOK SHEET METALとの資本業務提携
 - ・ 新工場建設
- シンガポールでの収益改善が進展
- ベトナムでの販売ネットワークを獲得
 - ・ 情報通信系商社であるSOECOの株式取得

⇒ **既存の海外事業における収益改善に
加え、M&Aにより事業を拡大**

生産体制・経営基盤の強化

<生産体制強化>

- 需要・戦略に合わせた生産体制を構築するため、新工場用地を取得（瀬戸/栃木野木）
- スマート工場の実現に向け、製造技術力を強化

<経営管理基盤強化>

- グループ内資金の一元管理と再配置〔成長投資〕を行うための仕組みを設計
- グループ従業員に向けたインセンティブ制度を導入
- 価格改定により、収益の安定化を実現

長期経営構想

地球の未来に「信頼と安心」を届ける企業グループへ

目指す姿

- ▶ 持続可能な社会インフラの構築を支える
- ▶ 安心・安全な未来づくりに努め、次世代へとつなぐ
- ▶ 世の中に信頼される課題解決企業集団となる

持続可能な社会の実現に向けた目標 ～ 重要課題 ～

再生可能エネルギーの促進、車両電動化の支援を通じて、**脱炭素社会の構築に貢献する**




老朽化したインフラの更新、防災・減災に関わる製品・サービスを通じて、**強靱な社会の実現に貢献する**




ICTの更なる進展を支え、**ニューノーマル社会の構築に貢献する**




製品・サービスの提供を通じ環境負荷低減活動を推進し、**循環型社会の実現に貢献する**



顧客が抱える社会課題に寄り添い、解決サポートすることで世の中になくはない存在となる



日東工業グループであることに誇りを持ち、自己の成長、働きがいを感じられるようになる



経済的価値と社会的価値を両立させ、企業価値を高める

長期経営構想 グループ基本戦略

1. 個社ブランド戦略の推進

個社ブランドの強化とグループ内での相互活用

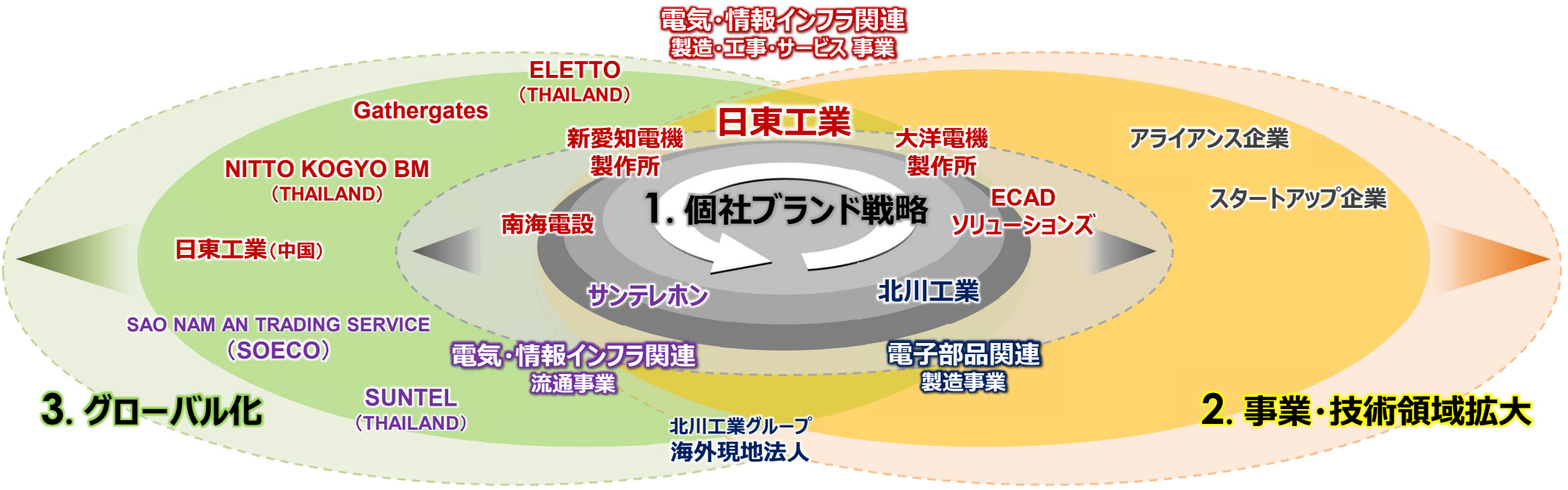
2. 事業領域・技術領域の拡大

3. グローバル化

- 我々が生み出す価値(製品・サービス)を海外にも展開する

- 各社が育ててきたブランドを継承する
- 市場(顧客)に対して知名度のある各社のブランドをグループ内で相互活用する

- 成長分野への積極的な投資により、事業領域・技術領域の拡大をはかる
- グループのリソースを相互活用し、新たなビジネスモデルを生み出す



長期経営構想 長期成長ストーリー

2016
年度

2020
年度

2023
年度

地球の未来に
「信頼と安心」を届ける企業グループへ
企業価値向上



事業規模 拡大
ビジネスを進化させて
経済的価値を高める

重要課題 解決
社会が抱える課題に応え
社会的価値を高める

2023中期経営計画

ビジネスを進化させる
土台を築く

- 事業の規模・領域を拡大
- スキル(技術力・提案力)の向上

社会が抱える課題を見据え
事業機会を創出

2020中期経営計画

ビジネスを進化させる
種を見つける

基本方針

挑戦
次世代のビジネスモデルへ

2023中期経営計画

2023中期経営計画 中期経営方針

基本方針

足場固め と 攻めの経営

盤石な事業基盤の構築

- ✓ 既存事業の体制(売るしくみ・作るしくみ)を強化する
- ✓ 収益性を高めキャッシュを最大化する
- ✓ グループ内の事業シナジーを生み出せる体制を構築する

グループ経営基盤の強化

- ✓ グループ共通の情報インフラ基盤を構築する
- ✓ グループ人財の柔軟な活用・シフトができる体制を整備する

事業拡大への挑戦

- ✓ 既存の市場・業界を越えた新たな事業の創出を目指す
- ✓ 海外市場の展開により事業規模を拡大する
- ✓ 新技術の獲得に向けた取組みを推進する

積極的な成長投資

- ✓ R&D・新事業の戦略投資を推進する
- ✓ 大胆な投資をグループ全体最適で実行できる体制を構築する
- ✓ 成長へとつながる資本提携・M&Aを必要に応じ実行する

2023中期経営計画 財務目標



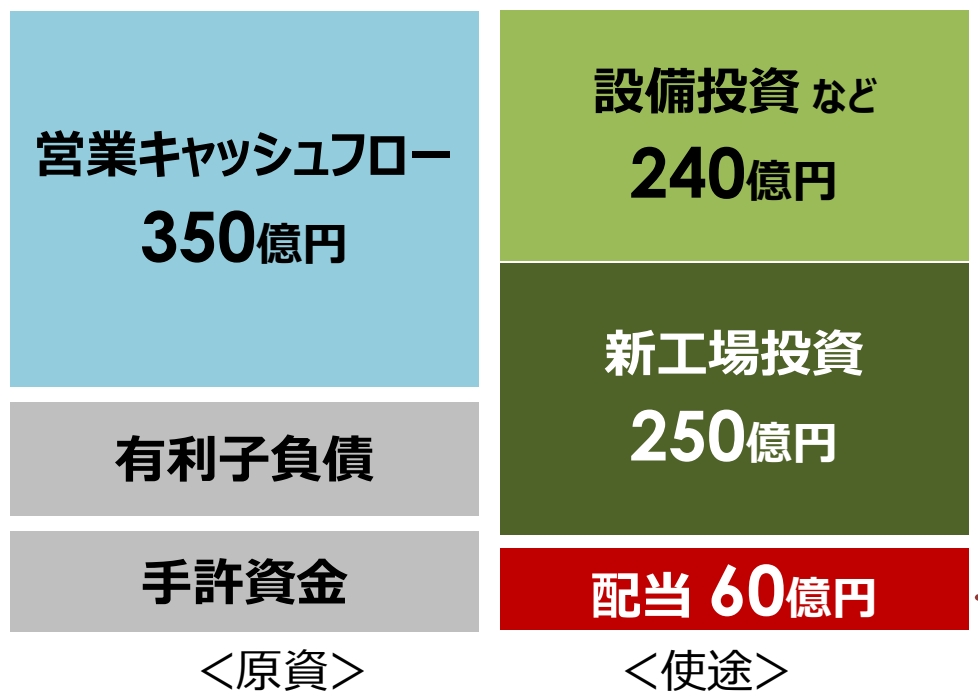
- ▶ 本中期経営計画期間は2024年度以降の成長に向けた準備(足場固め)に重点をおく
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の市況影響が、2022年度から緩やかに回復していく前提とし、中期経営計画 最終年度までに感染拡大前の水準まで業績を回復させることを目指す
- ▶ 株主資本コストを上回るROEの維持を目指す
新工場関連費用などの大型投資による業績影響を勘案した目標値

2023中期経営計画 財務計画・資本政策

▷ 既存事業で創出した営業キャッシュフローを
設備投資やM&Aなどへ優先的に振り向けた上で、安定的な株主還元を実施する

投資方針

3か年 資金配分計画 キャッシュアロケーション



- ✓ 営業キャッシュフローを源泉にし、投資を実行
- ✓ 成長のための優良な大型投資があれば、負債の活用も視野に入れながら積極的に実行する
- ✓ 設備などの維持・更新目的の投資は、減価償却の範囲内で実行する

株主還元方針

配当性向 30% 業績の変動時にも安定した配当を旨とし、DOEなども勘案する

	2020年度	2021～2023年度
1株あたり配当額	66円	40～66円

2023中期経営計画 セグメント別目標

- 本中計期間内にコロナ禍前の業績への回復を目指す
- 各セグメントにおいて、海外事業に注力することで業績目標達成を目指す
- 製造・工事・サービス事業は瀬戸工場建設関連の費用や償却費などが増加

(単位：億円)

	2021/3 実績	2023中期経営計画			3ヵ年 成長率
		2022/3	2023/3	2024/3	
連結売上高	1,379	1,360		1,500	+8.8%
電気情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業	768	781		855	+11.3%
電気情報インフラ関連 流通事業	498	462		515	+3.2%
電子部品関連 製造事業	111	117		130	+16.1%
(内 海外売上高)	96	114		150	+56.0%
連結営業利益	123	95		130	+5.4%
電気情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業	96	—		99	+2.2%
電気情報インフラ関連 流通事業	19	—		18	△7.4%
電子部品関連 製造事業	6	—		13	+88.6%

電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業

	2021/3月期	2024/3月期
売上高	768億円	855億円
営業利益	96億円	99億円

配電盤事業戦略

盤開発製品の開発・供給・サービスを通じ、お客様に信頼される存在となり、業界の発展に貢献する

キャビネット事業戦略

市場の変化とニーズを敏感に捉え、新製品と新たな価値を投入し続ける

情報通信関連事業戦略

超スマート社会（Society5.0）の実現に向け、強靱な情報通信インフラの構築に貢献する

コア事業競争力の追求

グローバル化

海外事業戦略

海外拠点の強固な事業体制を構築し、優良な製品とサービスで社会インフラ構築に貢献する

新規ビジネスの展開

事業領域拡大戦略

持続可能な社会の実現に向け、新しい技術や視点の製品・サービスを提供し、事業領域を拡大する



電気・情報インフラ関連 流通事業

	2021/3月期	2024/3月期
売上高	498億円	515億円
営業利益	19億円	18億円



情報通信関連商社のリーディングカンパニーとして、次世代ICTインフラ構築の中核を担うソリューションパートナーになる

市場のニーズに的確に対応し、DXによる超スマート社会（Society5.0）実現に寄与する

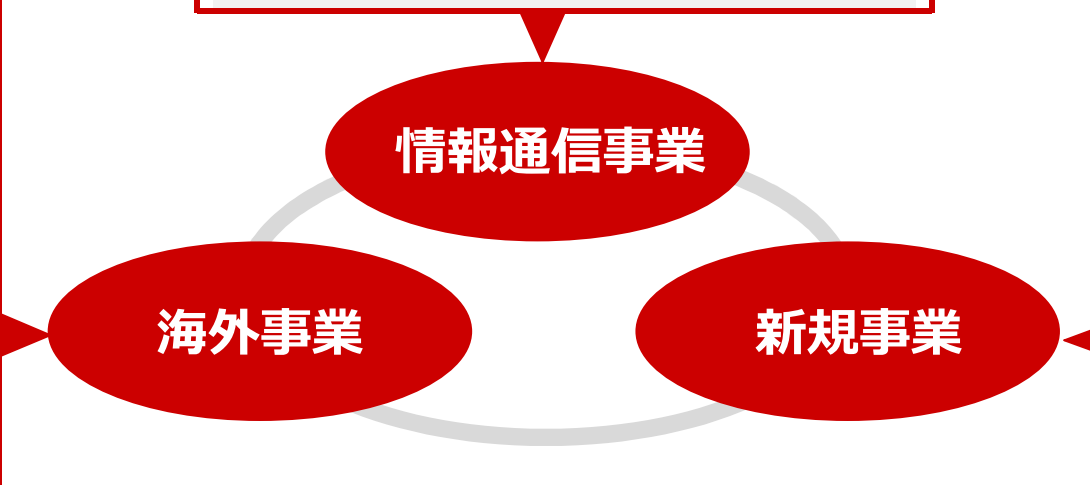
法人・個人事業主様向けECサイト「GOYOU」



www.goyou.jp

海外の成長市場において、日本で 確立したビジネスモデルを構築し、成長戦略の一端を担う

成長市場であるASEANマーケットに、日本で確立した情報通信事業の基盤を改良移植する



第二の事業の柱を担う、新たな付加価値提供型ビジネスを創造する

材工一括によるファシリティービジネスモデルの確立およびDX実現化に向けた推進サポートを行う

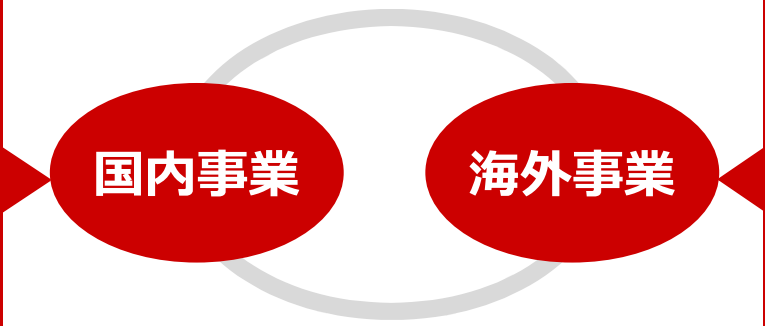
2023中期経営計画 事業戦略

電子部品関連 製造事業

	2021/3月期	2024/3月期
売上高	111億円	130億円
営業利益	6億円	13億円

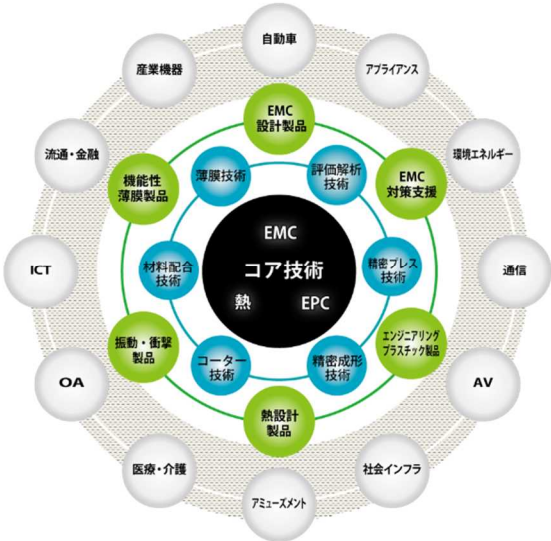
新たな成功モデルを創造し 海外の成長エンジンとする

- ▶ 既存技術の融合による既存市場の深耕
- ▶ 新市場獲得
- ▶ 新製品開発
潜在的なテーマを予測し、「先行提案型の製品開発」を行う など

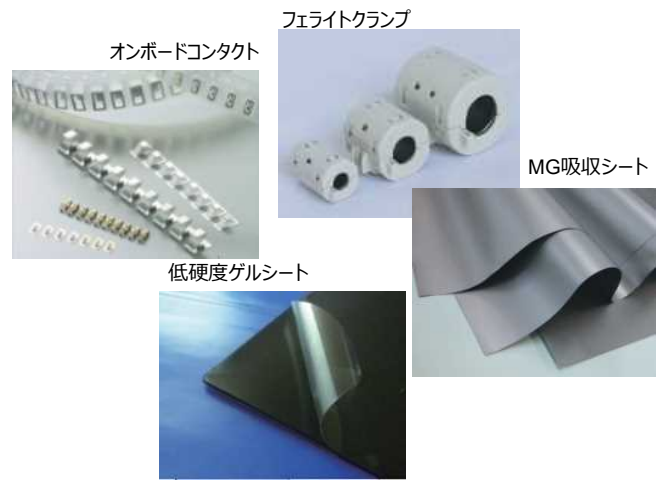


国内の成功モデルの展開と 重点市場の売上を拡大する

- ▶ 海外販売強化
EMCセンターのグローバル支援による売上拡大 など
- ▶ 全社最適化



EMC設計支援 コンサルタント



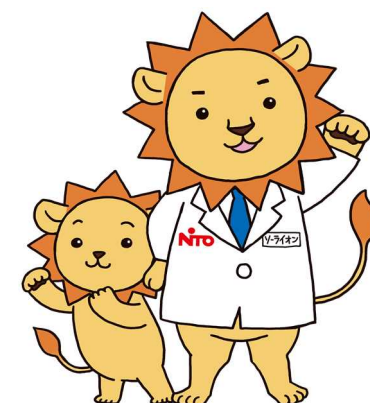
ご清聴ありがとうございました

CONNECT!

～電気と情報をつなぐ～

NITO 日東工業株式会社

証券コード：6651



- 1 2021年3月期 通期決算概要
- 2 2022年3月期 通期連結業績予想
- 3 中期経営計画

4 参考資料

電気・情報インフラ関連 製造・工事・サービス事業

■ 分・配電盤、制御盤等の設計、製造、販売および電気設備の保守等の工事事業

配電盤



高圧受電設備



分・配電盤

キャビネット



キャビネット



システムラック



遮断器・開閉器・パーツ・その他



ブレーカ



パーツ



充電スタンド

工事・サービス



通信設備工事



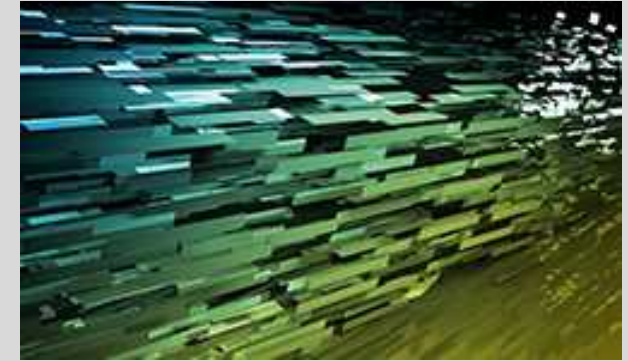
電気設備工事

■ 情報通信機器および部材の仕入、販売



ネットワークカメラ

それぞれのシステムに合わせた
最適な監視システム機器の仕
入、販売



高速ネットワーク機器

無線・有線を効率的に使い分
けた通信インフラの構築機器
の仕入、販売



情報セキュリティ関連製品

様々な情報リスクに対して対策
を講じる、トータルセキュリティ
機器の仕入、販売

電子部品関連 製造事業

■ 電磁波環境コンポーネント・精密エンジニアリングコンポーネント等の製造、販売

電磁波環境コンポーネント

電磁波による電子機器の誤作動防止などを目的とする電子部品の製造、販売

【フェライトコア】



【ケーブルシールド】



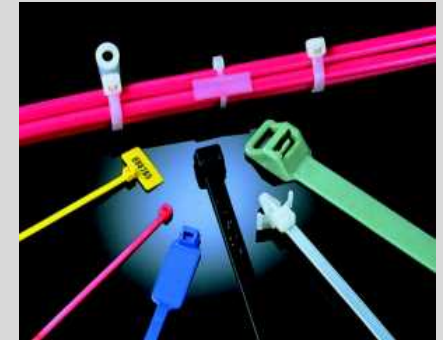
精密エンジニアリングコンポーネント

プラスチックファスナー等の各種機器機構部品や生産性向上に貢献する熱・振動・衝撃・騒音への対策部品等の製造、販売

【クランプ】

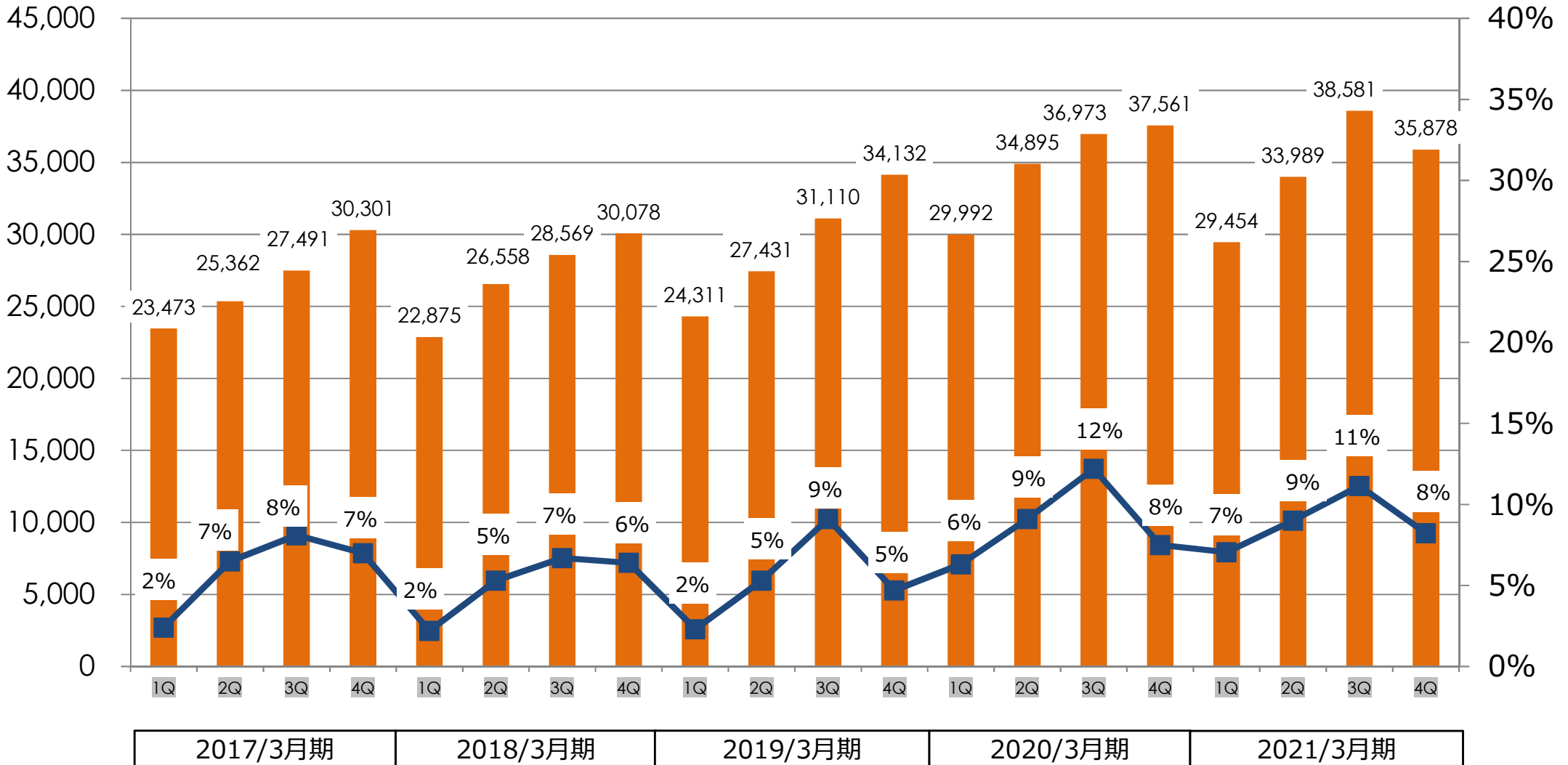


【バンド】



連結売上高の推移（四半期）

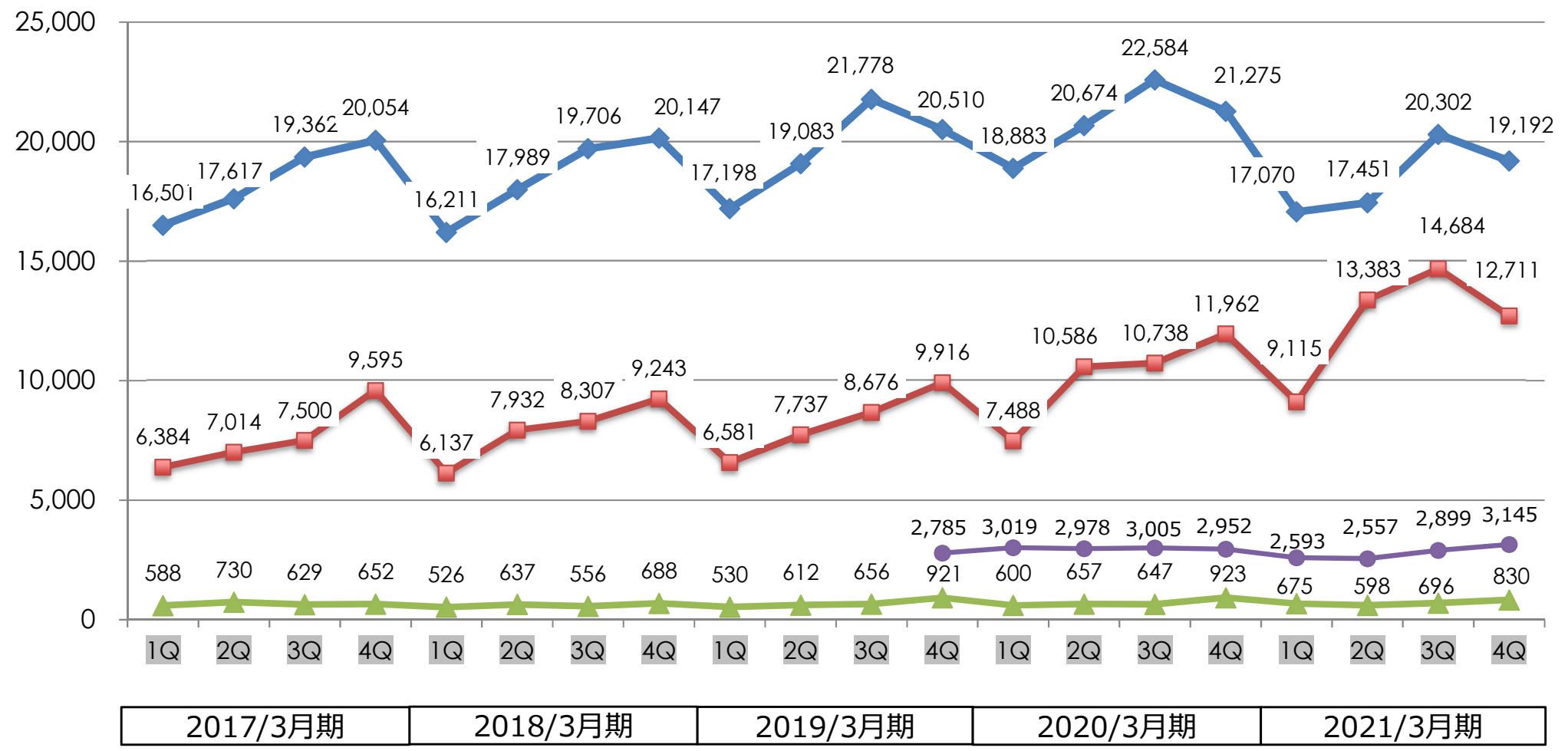
(単位：百万円)



セグメント別 売上高の推移 (四半期)

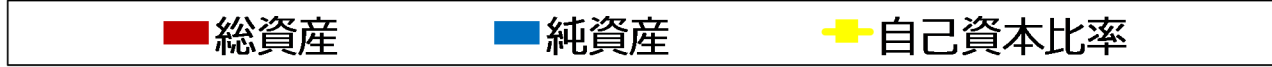
◆ 配電盤関連製造事業 ■ 情報通信関連事業 ▲ 工事・サービス事業 ● 電子部品関連事業

(単位：百万円)

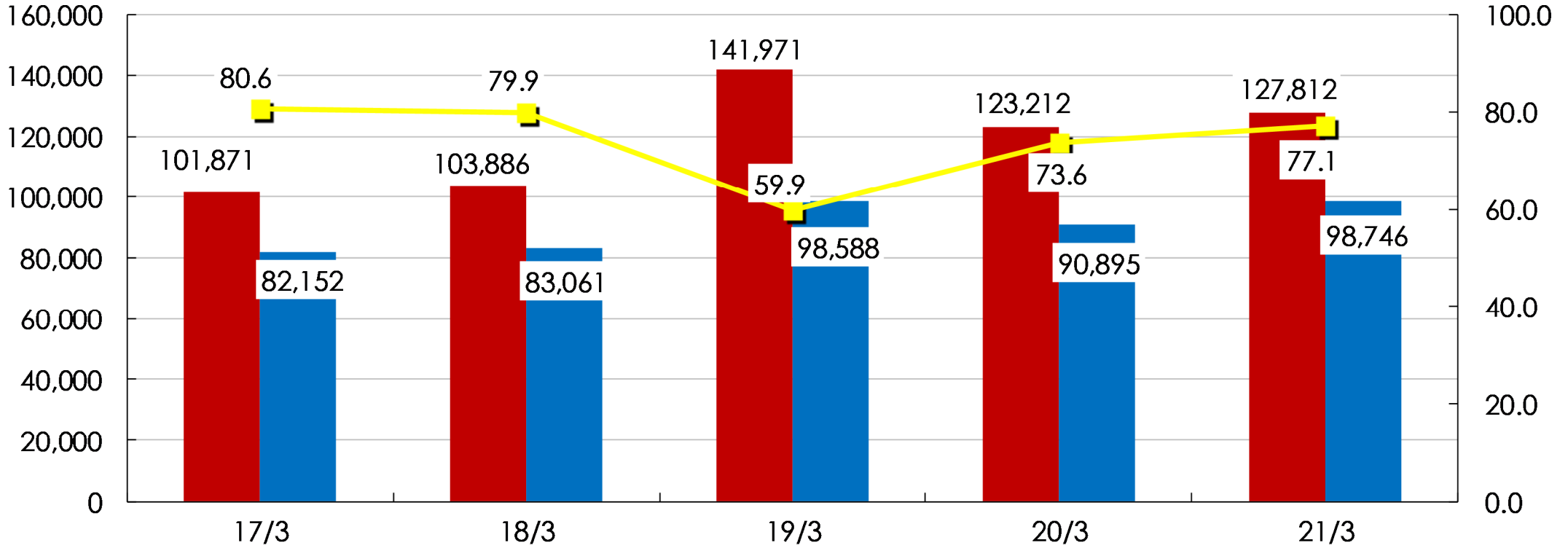


総資産・純資産・自己資本比率

(単位：百万円)



(単位：%)

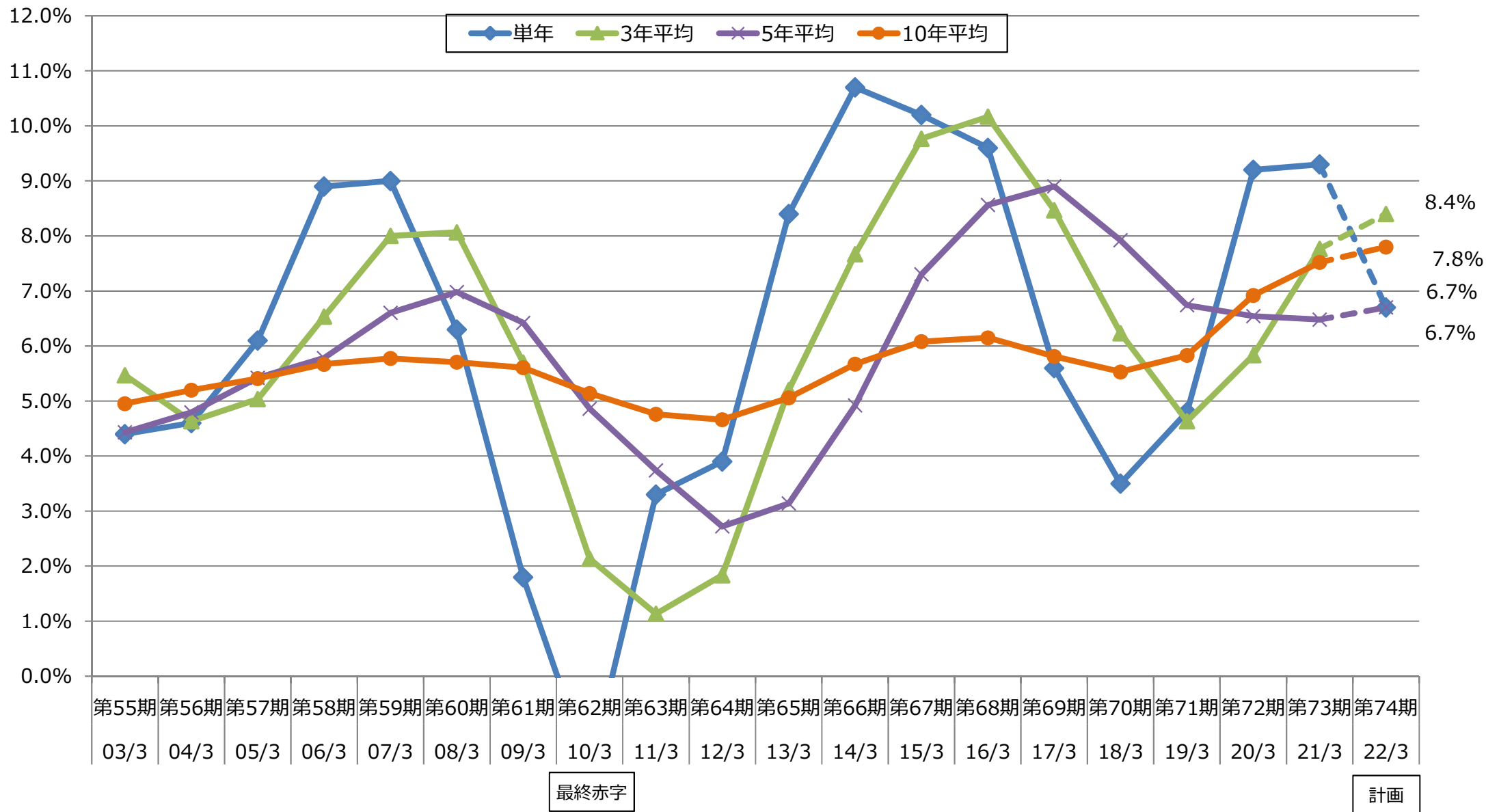


(単位：百万円)

	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3
総資産	101,871	103,886	141,971	123,212	127,812
純資産	82,152	83,061	98,588	90,895	98,746
自己資本比率	80.6%	79.9%	59.9%	73.6%	77.1%

ROE（自己資本当期純利益率）の推移（連結）

2021年3月期
通期



標準品とカスタム品

標準品のリーディングカンパニー

カスタム品
||
一品一様
の特注品

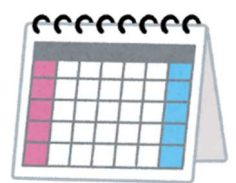


標準品
||
仕様が定められたカタログ掲載品

計画生産
在庫管理

量産力

カスタマイズ



低コスト、短納期で
品質の安定した製品を提供

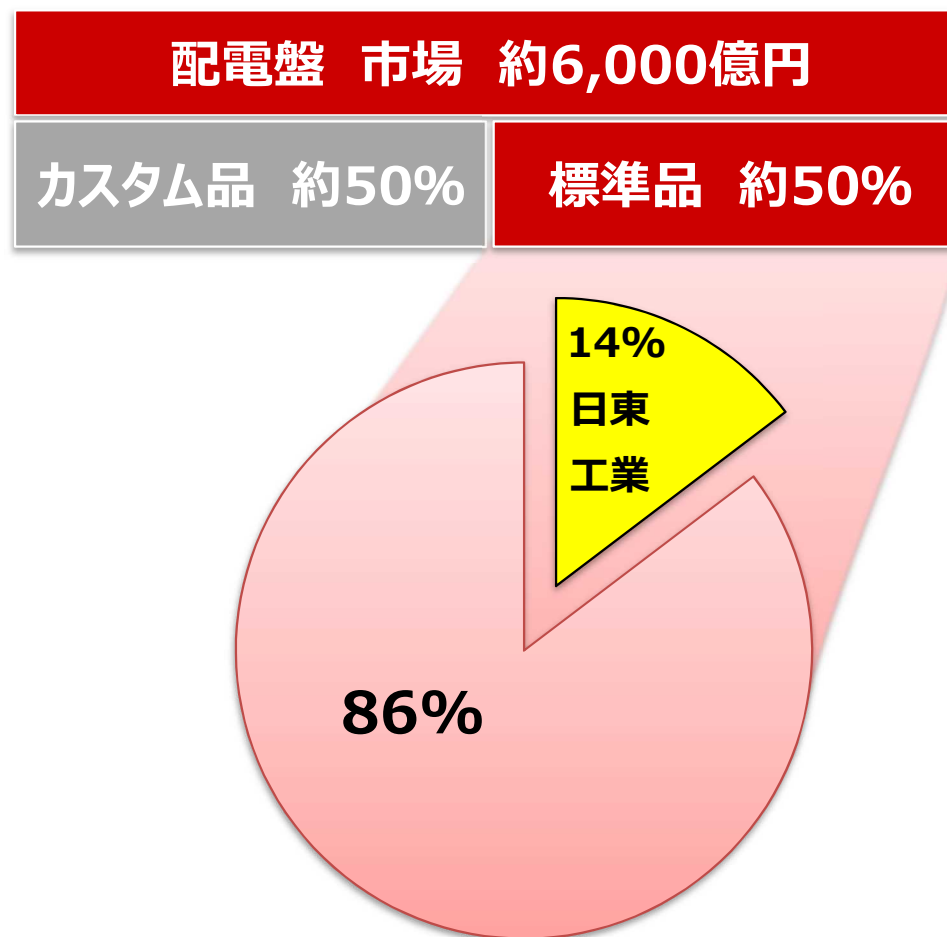
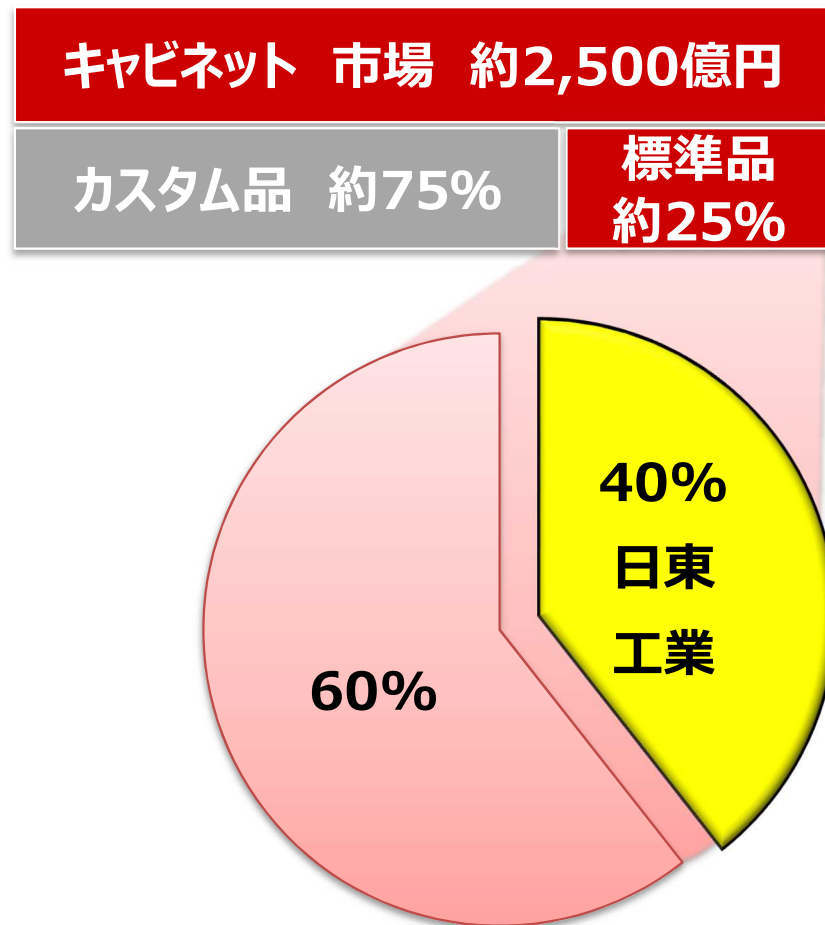


生産効率の追求により
大量生産を可能に



標準品をベースとした
仕様変更にも対応可能

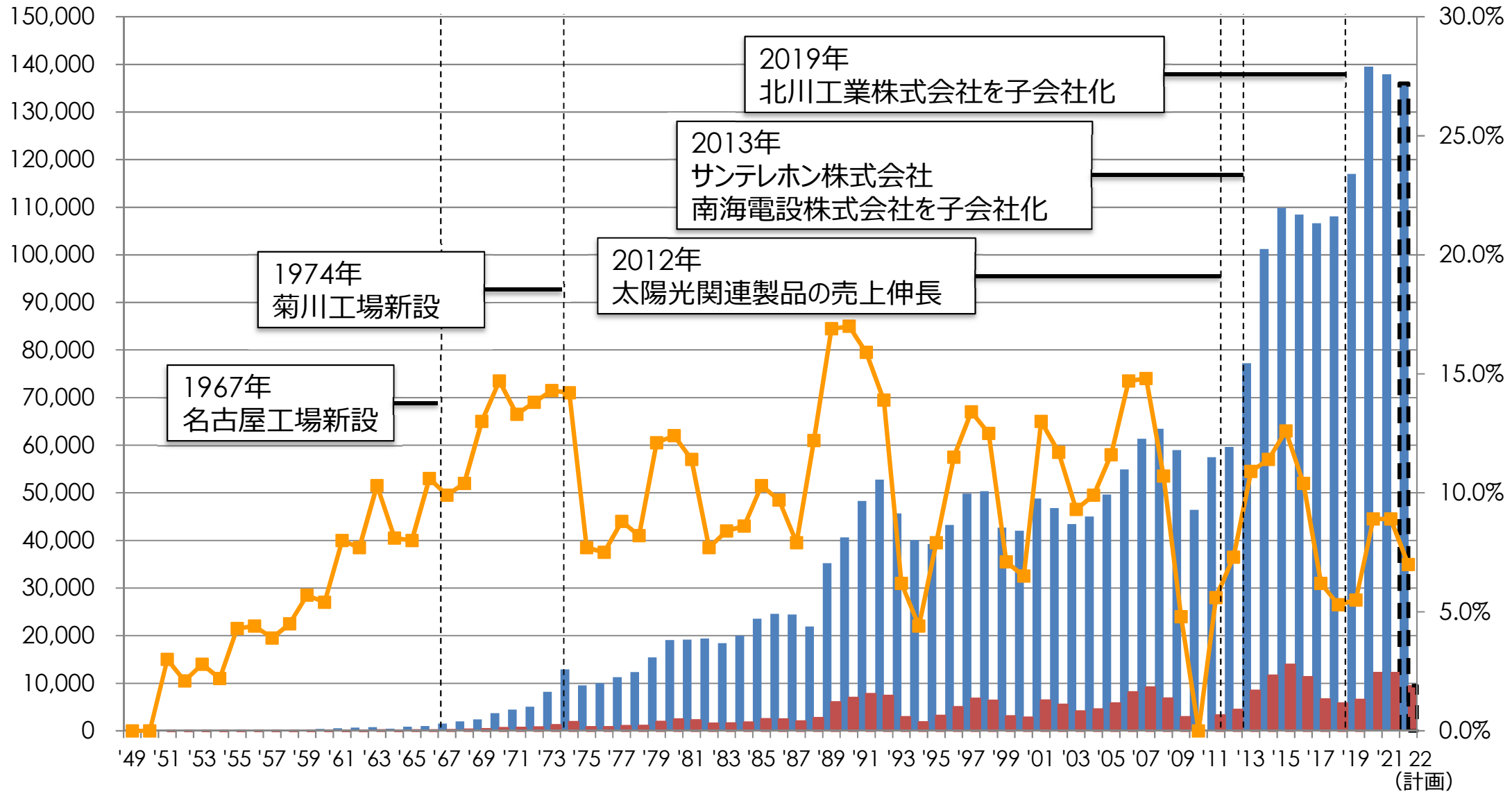
標準品市場でキャビネットはシェアNo.1！配電盤はシェアNo.2！（※）



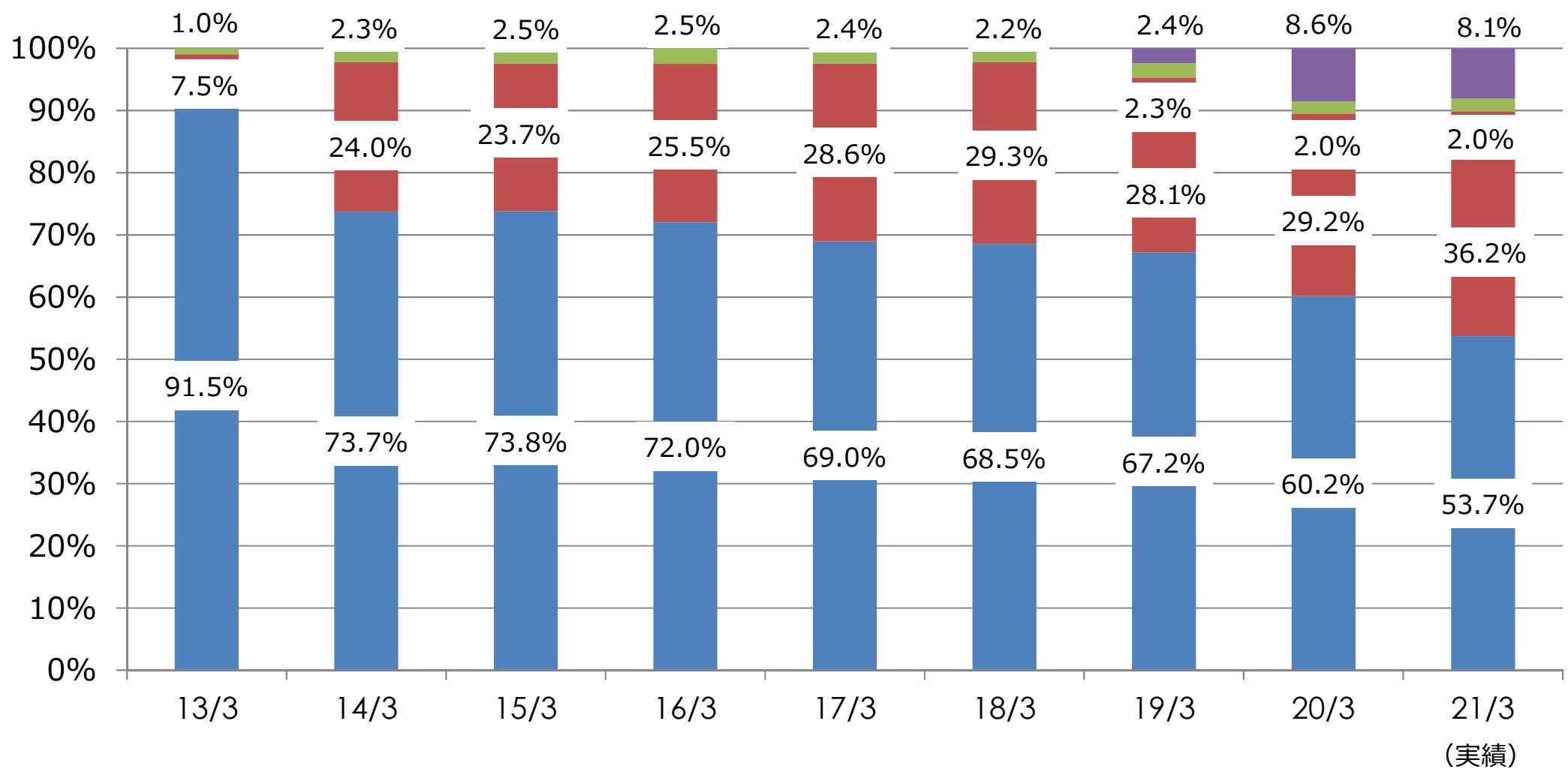
※キャビネット市場にシステムラック、配電盤市場に光接続箱を含む

業績推移 設立～現在

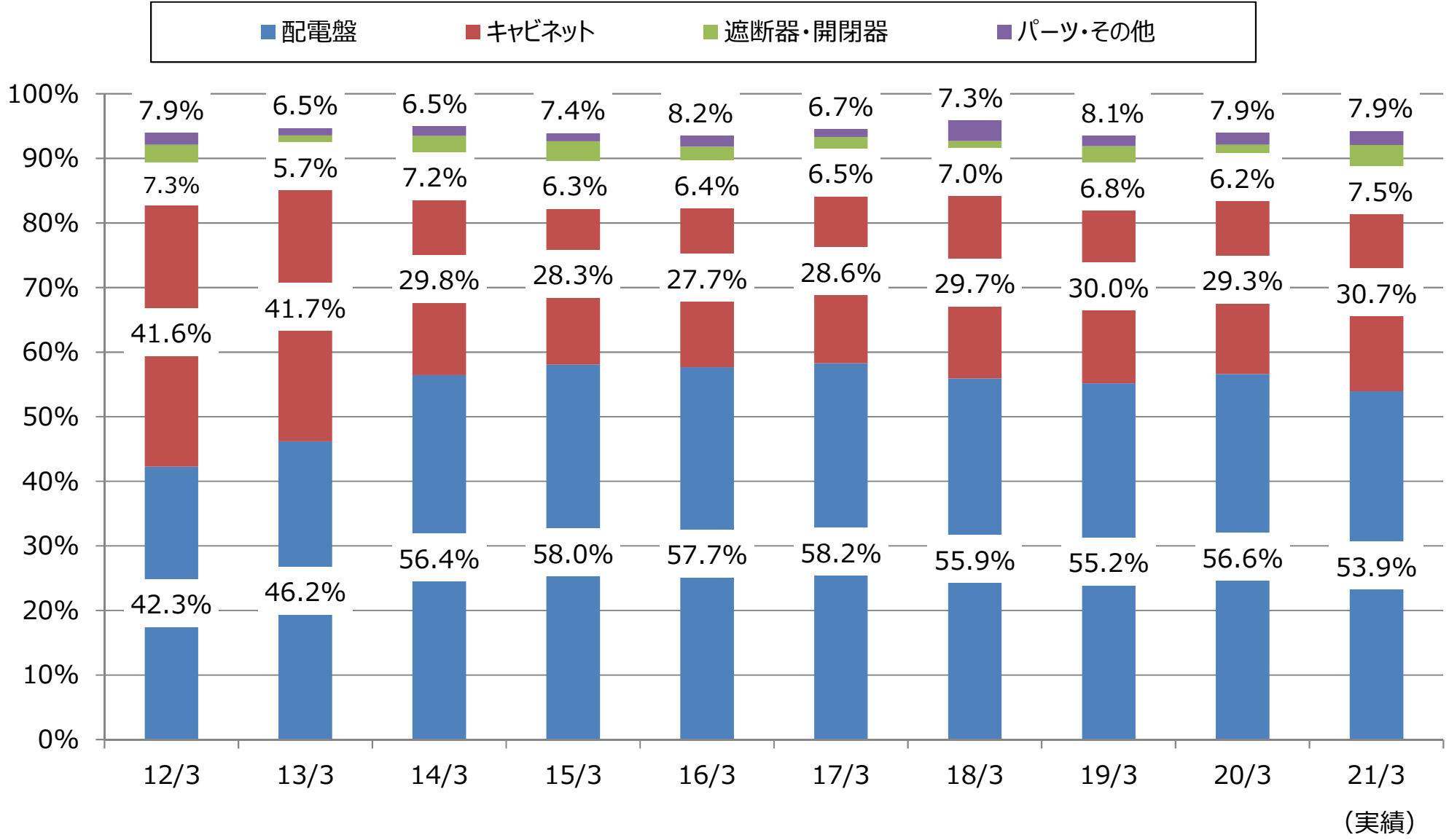
(単位：百万円)



事業セグメント別 売上高構成比



配電盤関連製造事業（部門別売上高構成比率）



四捨五入の関係で数値の合計が一致しないことがあります。